

第16回

高崎演能の会

令和3年3月9日(火)
高崎芸術劇場 スタジオシアター 能舞台



藤波 重彦



下平 克宏



殿田 謙吉



野村 萬齋

昼の部 14時00分開演(13時15分開場)

狂言 二人大名 野村 萬齋
能 鉢 木 下平 克宏

夜の部 18時15分開演(17時30分開場)

狂言 入間川 野村 萬齋
能 船 橋 下平 克宏

高崎芸術劇場

【高崎演能の会 プレ講座】各回、高崎芸術劇場1階スタジオシアターにて14:00~15:30(入場無料)
[第1回]1月27日(水) 能をたのしもう [第2回]2月10日(水) 鉢木 上州人の気骨 [第3回]2月24日(水) 船橋 かなわぬ恋物語
事前にEメールまたは郵便ハガキでのお申し込みが必要で、申し込み受け付け後、「入場整理券」を発送します。なお、定員になり次第、受付を終了いたします。
【申込方法】代表の方の①郵便番号 ②住所 ③氏名(ふりがな)④電話番号 ⑤受講人数 ⑥ご希望の回 を明記して、Eメール:ticket@takasaki-foundation.or.jp
(メール件名は「プレ講座」と入力ください) 郵便:〒370-0841 高崎市栄町9-1 高崎芸術劇場「プレ講座」係へ。

第16回 高崎演能の会

令和3年3月9日(火)

スタジオシアター
STUDIO THEATRE

昼の部 14時00分開演(13時15分開場)

夜の部 18時15分開演(17時30分開場)

会場 高崎芸術劇場 スタジオシアター 能舞台

入場料 【全席指定】 S席 8,000円
A席 5,000円

主催・お問い合わせ 高崎芸術劇場 027-321-3900

チケット発売

web 12/4(金)10時~

●高崎芸術劇場メンバーズ限定(WEB登録無料)

高崎芸術劇場



プレイガイド:高崎芸術劇場メンバーズ
<http://takasaki-foundation.or.jp/theatre/>

電話 12/7(月)10時~

高崎芸術劇場チケットセンター
027-321-3900(10:00~18:00)

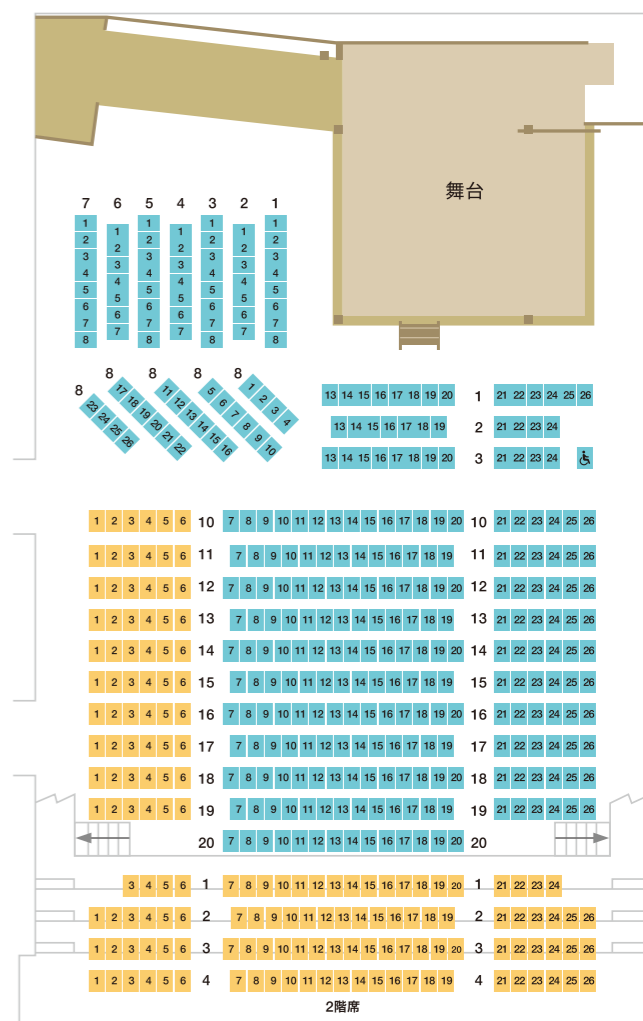
窓口 12/8(火)10時~

- [A] ■ 群馬音楽センター
- [B] ■ 高崎市文化会館
- [C] ■ 高崎シティギャラリー
- [D] ■ 箕郷文化会館
- [E] ■ 新町文化ホール
- [F] ■ 榛名文化会館
- [G] ■ 吉井文化会館
- [H] ■ 高崎市倉渕支所(地域振興課内)
- [I] ■ 高崎市群馬支所(地域振興課内)

■ A・B=休 [月] ■ D・E・F・G=休 [月・火] ■ H・I=休 [土・日・祝]

※未就学児の入場はご遠慮ください。
※公演中止の場合を除き、一度購入されたチケットの払い戻し、交換はいたしかねますのでご了承ください。
※都合により、出演者・演目を変更する場合がございます。
※ご来場にあたってお客様へのお願い、感染予防の取り組みについては、当劇場ホームページをご覧ください。

主催 一般社団法人
高崎芸術劇場 下平克宏演能の会



S席 8,000円 A席 5,000円



〒370-0841 群馬県高崎市栄町9-1 (JR高崎駅東口から徒歩5分)
※専用駐車場はございません。

第16回 高崎演能の会 令和3年3月9日(火) 高崎芸術劇場 スタジオシアター 能舞台

昼の部

14時00分開演(13時15分開場) 終了予定16時30分

おはなし

手島 仁

仕舞 玉之段
地謡

藤波 重彦
松木 千俊

狂言 二人大名
使いの者

野村 萬齋
内藤 連

大松 洋一
新江 和人
松木 崇俊

大名
大名
中村 修一

能 鉢木

佐野源左衛門常世

下平 克宏

地謡

藤波 重彦

常世の妻

大槻 崇充

小早川 修

旅僧・北条時頼

殿田 謙吉

松木 千俊

時頼の家臣

則久 英志

大松 洋一

家臣の下人

高野 和憲

川原 恵三

鎌倉の使い

野村 太一郎

金子 聡哉

笛

小野寺 竜一

新江 和人

小鼓

鶴澤 洋太郎

小早川 泰輝

大鼓

安福 光雄

武田 尚浩

後見

武田 尚浩

藤波 重彦



はちのき 鉢木

高崎を舞台とし、冬になると各地で頻繁に上演される、人気曲である。

上野国佐野に住む佐野源左衛門常世(ふりがな:さのげんざえもんつねよ)は妻と零落した日々を送っていたが、大雪の日に旅僧に一夜を提供する。常世は家宝の梅・桜・松の鉢木を切り暖を取り、貧しいながらも精一杯のもてなしをする。そして落ちぶれてはいるが、鎌倉殿への忠誠は誰にも負けないと語る。

実は旅僧は最明寺時頼(ふりがな:さいみょうじときより)で、鎌倉に帰ると、常世の本心を試そうと、いざ鎌倉の号令をかける。果たして、常世は錆びた長刀を持ち、痩せ馬に乗り、一番に駆け付ける。時頼は常世の忠義を褒め、横領されていた本領を返し与え、鉢木に因んだ三箇の荘(加賀の梅田・越中の桜井・上野の松井田)を褒美に与える。

鎌倉武士の気骨を描いた痛快な物語である。寒さ厳しい雪景色と、そこに住む上州人の情の温かさを対照的に描き出している。

ふたりだいみょう 二人大名

二人の大名が供を連れずに外出する途中、道ずれになった男を脅して太刀を持たせる。男は、いったん従者扱いはされるのを承知したものの、大名の態度が腹立たしくなる。男は、すきを見て太刀を

抜き、大名たちを脅し返し、一腰(刀)を取り上げ、素襖上下を脱がせ、奪おうとする。さらに男は、返せと懇願する大名に、鶏の蹴合う真似・犬の噛合う真似・起き上がり小法師の真似をさせてなぶった後、刀や素襖を持って逃げる。

大らかな、狂言の笑いの世界を、心ゆくまで御堪能ください。



夜の部

18時15分開演(17時30分開場) 終了予定20時45分

おはなし

手島 仁

仕舞 田村
地謡

藤波 重孝
川原 恵三
新江 和人
大槻 崇充
松木 崇俊

狂言 入間川
大名

野村 萬齋

入間の何某
主
野村 太一郎
石田 淡朗

能 船橋

里の男

下平 克宏

地謡

武田 尚浩

里の女

大松 洋一

小早川 修

山伏

殿田 謙吉

藤波 重孝

山伏

則久 英志

川原 恵三

所の者

高野 和憲

新江 和人

笛

小野寺 竜一

小早川 泰輝

小鼓

鶴澤 洋太郎

武田 崇史

大鼓

安福 光雄

松木 崇俊

太鼓

小寺 真佐人

後見

藤波 重彦

松木 崇俊



ふなばし 船橋

万葉集に描かれた、高崎市佐野船橋に伝わる悲恋物語。

佐野の烏川の対岸に住む男女は、惹かれあい、夜な夜な船橋を渡り逢瀬を重ねた。交際に反対した互いの両親は、船橋の板を取り放し、交際をあきらめさせようとするが、二人はそれに気付かず、川に落ち死んでしまう。舞台では、僧が佐野に着くと、里の若い男女が現れ、橋の造立の寄付を乞う。男は、万葉集の故事を語り、自分達はその幽霊であると明かし消え失せる。やがて男女が昔の姿で再び現れ、壮絶な最期を再現し、叶わぬ恋の無念さを語るが、僧の回向に感謝し成仏を遂げるのであった。

万葉集 卷十四 東歌

「かみつけの 佐野の船橋とりはなし 親はさくれど わはさかるがへ」



いるまがわ 入間川

都から帰郷する東国の大名が入間川にさしかかり、川の向こうを通る入間の何某にことばをかける。渡り瀬を問うと、ここは深いという答えが返ってくる。大名は、ここは入間、それならば入間様の逆言葉で浅瀬かと考え、かまわず川を渡り、深みにはまる。助けられて岸に上がった大名は、怒って成敗しようとする。何某が、成敗するとは入間様なら助けるということだと喜ぶと、大名は面白がり、何某に入間様を使わせ、持ち物を与えるが、入間様を利用して再び自分の手に取り戻す。

武蔵野の入間川あたりの自然の広がりの中で、大名は入間様に興ずる。